

1 研究主題

自己・教材・仲間とかかわり、学び合う音楽科の授業

2 はじめに

本研究会では、子どもたちが授業の主役となり「自己」「教材」「仲間」との関わりを大切にしながら学び合う音楽の授業を目指して研究を進めてきた。

様々な場面でペアやグループでの活動を取り入れながら、深い学びに迫ろうとする実践は、音楽科の「学び合い」の基本となってきた。

今年度も、引き続き「自己」「教材」「仲間」と関わり、音楽を形づくっている要素を聴き取り、音楽のよさ、おもしろさ、美しさを感じ取り、思いや意図をもって表現することができる子を目指すと同時に、音楽科教育の意義を念頭に置いて授業を構成することを意識して実践を行っていくこととした。

3 研究経過

小学校低学年・中学年・高学年部会、中学校部会の4つの分科会に分かれて、実践報告と協議を行った。6月、7月、9月の3回の中で、全部員が授業実践をもとにレポートを持ち寄り、発表を行った。写真や動画、録音した音源なども用いて、より具体的に話し合う場面が見られた。少人数での協議のため、和やかな雰囲気積極的に意見交換をすることができ、レポートの内容以外にも日々の授業についての情報交換をしたり、悩みなどを気軽に相談し合ったりすることができた。

6月、7月、9月、10月、11月には合唱の実技研修も行った。「愛をあげよう」と「夕陽」の2曲を練習し、11月に行われた市小中学校音楽会で演奏を披露した。

4 研究の概要

各分科会では、それぞれの学年の発達段階や実態に合わせて、自己・教材・仲間とかかわりを意識し、ICレコーダーや楽譜・ワークシート等の教具や、ペアやグループなど授業形態の工夫についての研究を進めた。

(1) 実践例1

鑑賞 はくのとまりをかんじとろう『トルコ行進曲』 小学校低学年（2年）

2拍子に合わせ、挿絵を見て情景を想像しながら聴いたり、友だちと一緒にリズムを取りながら拍のとまりを感じ取ったりすることを目標に実践を行った。まず、曲を聴いて感じたことを発表させ、教科書の音の線を指でなぞらせた。その後、個人やペアで手拍子をさせ2拍子のリズムに慣れさせた。またグループで2拍子に合わせて行進をすることを通して、音の強弱から行列の近づく様子を想像させた。友だちの手拍子のリズムを聴くために、自分がたたく手の音を少し小さくしたり、周りの友だちの動きを見て合わせたりしようとする児童が増えた。そうすることでリズムを感じ取

ることが苦手な児童も、徐々に2拍子のまとまりを感じ取ることができるようになってきた。また、ふり返りでも友だちの発表に耳を傾けようとする児童が増えた。

(2) 実践例2

歌唱 いろいろな音のひびきを味わおう『いつでもあの海は』 小学校高学年（5年）

曲の構成や特徴を楽譜から読み取り、どのように歌いたいかという思いをもたせ、仲間と交流する中で曲にふさわしい表現を工夫させた。また、グループごとに練習してお互いに聴き合い、アドバイスし合う活動を取り入れた。そしてそれを全体での合唱に生かすことを目標とした。

ICレコーダーを活用し、自分たちの録音した合唱と範唱を聴き比べたり、音楽の諸要素との関わりを感じ取らせたりすることができた。ふり返りから、強弱や音のバランスが良くなったと感じている児童が多くいた反面、もっとこうすれば良かったと感じている児童もあり、達成感に個人差があったことが課題の一つだった。全体としてどのような歌に仕上げたいのかを共有することも必要だと感じた。

(3) 実践例3

歌唱 合唱の喜び(コーラス大会の実践より) <中学校（3年）>

感じたことを自分の言葉で表現し、コミュニケーションを通して豊かな音楽表現ができる生徒の育成を目指した。はじめに、あらゆるジャンルの曲を聴かせることで曲の特徴を言語化させるトレーニングを行ったり、振り返り用紙で前時の学びや問題点を記録させたりすることで、思いや意図を言葉で表現できる生徒を育成した。

ICレコーダーを活用することで、自分が意識して表現したことを、客観的な視点で判断させることができた。「言語化が得意だが表現することが苦手だ」という生徒にも効果的だった。振り返りではこのように歌いたいという思いを見せるものの、人前で堂々と自分をさらけ出して歌うことに抵抗をもち技能に結びつかないことがある。今回はグループごとで録音し、スピーカーにつないでその場で聴くことができるように環境を整えた。さらに手順や録音バランスの調整をまとめた「ICレコーダーの使い方のマニュアル」を配布し、何度も録音をして聴いてみるよう助言し、『試す→聴く→考える→また試す』のサイクルが大切であることを伝えた。何度も作業を繰り返していくうちに、録音した自分たちの声に慣れ、客観的な視点で成果や改善点を探ることができるようになったことが、生徒たちの会話からも分かった。

5 今後の課題

互いのよさを認め合い、苦手なことを自分から尋ねたり教え合ったりすることで、子供たちの意欲が高まり、音楽を形づくっている要素とその働きに着目させて表現や鑑賞の活動に取り組んできたことで、思いや意図をもって表現しようとする力や想像力豊かに聴く力が向上してきたことが、実践報告からわかる。

今回の学習指導要領の改訂では、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するということを目指している。このような資質・能力を育むためには、音楽的な見方・考え方を働かせることが必要であることも示されている。今後も、多様な音楽活動を幅広く体験させながら、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情などに関連づけて考える力を育んでいきたい。